

『向島の豊かな自然と生きものたち』

第14回 カナブン・コガネムシ・ハナムグリ

今から50年位前の向島町江奥あたりの民家では、暑い日は窓や障子を開けて風通しを良くして涼しさを家の中に取り入れていました。

夜、部屋に蛍光灯をつけていると、ブンブンと羽音を立ててカチンコチン…ビュンブン…と蛍光灯に当たってホコリを落とすものだから、おばあちゃんはおウキやハタキで追っ払っていたけど、灯りがついている間中ブンブンと飛びまわる虫がいました。

その虫が、今回のカナブン・コガネムシ・ハナムグリの仲間です。

当時はそういう虫を「ブンブン」と呼んでいて、種類が違ったりか模様が違ったりかは気にせず全部「ブンブン」と名づけていました。

今から思えば、ほんまにおおざっぱな話です。

今の住宅は虫が家の中に入って来れないように「おみ戸」があるので、室内の灯りに虫が飛んでくる事は少なくなってきたと思いますが、夏の夜は虫たちでいっぱいです。

カナブンもハナムグリも「コガネムシ科」で、今回の標本以外にはカブトムシやブンコガシも同じ「コガネムシ科」の仲間です。

日本には約400種あり、姿かたちは同じようだったり「ツノ」があったり、大きさが違ったり模様が違ったり、さまざまに変化しているよね！

これは、樹液や果実、花の蜜、花粉を食べたり、幼虫の時にはくさった植物や植物の根を食べたり…とさまざまなエサに分かれていた事に原因があるかもしれませんね。

今回は「カナブン」の仲間と「ハナムグリ」の仲間を向かい合わせて並べたのと、色の変化を見て虫の不思議を考えてみてください。

花と鳥と昆虫と海辺に遊ぶ
つるかめクラブ